
姉貴夢想

悲劇のM

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

姉貴夢想

【著者名】

ZZマーク

N4677F

【あらすじ】

ほのぼのな姉弟の日常です。近親相姦は多分無いよ。多分。

腰まで届きそうな長い栗色の髪は、後頭部でボニー・テールにされている。その色に相するかのように瞳の色も淡い茶色。

俺より二歳上の姉で、高校三年生だ。背は俺より低い。まあ当たり前といつちや当たり前だが。

決まって両親がデートとやらに出かける日曜日の昼時は、いつもこうやって姉貴と二人で居間のソファードでテレビを見ながらくつろぐ。開け放した窓から時々入る涼しい風は、今が夏である事実を忘れさせる。いや、十月はもう秋かな？　どうでもいいや。

テーブルに置かれた、姉貴が淹ってくれたコーヒーを一口飲む。良質な苦味が口の中に広がって良い気分だ。

つーか、何でだ。さっきから一向に会話が無い。いつもならテレビの内容が分からなくなるほど話しかけてくる姉貴だが、今日はそれが無く、視線を宙に泳がせている。俺は少しだけ心配になつた。

「姉貴、元気無いな？」

「ちょっと、頭痛いかも」

「え、大丈夫か？」

改めて姉貴の顔を覗く。どうして今まで気付かなかつたのだろうか、その顔はかなり赤くなつていた。息もいつもより荒い。

「おい大丈夫かよ、顔赤いぞ」

姉貴の額に手をくつづける。掌にかなりの熱が伝わってきた。

「すげえ熱……。姉貴、ちょっとまつてろ」

俺は急いで台所に向かつた。冷凍庫に入っている氷枕を取り出し、それをタオルで巻くと、姉貴の下へ急いだ。

姉貴はソファードで一人分のスペースを占領してぐつたりと横になつていた。

「氷枕持つて来たぞ、これ使えよ」

姉貴の首を少し持ち上げると、その間に氷枕を敷いた。少し柔ら

かい表情になつたが、やはりまだ苦しそうだ。

「部屋のベッドで休むか？」

「うん、 そうしたいんだけど」

「立てない。 声にこそしなかつたが、 僕には分かつた。

「つたく、 世話焼かせるなよ」

俺は姉貴を持ち上げた。 お姫様抱っこで。

やつぱり小柄な姉貴は軽い。 片手で氷枕を持つ余裕まであつた。

「ごめんね」

「喋るな、 部屋連れてくから」

俺は姉貴の部屋へと向かう。 今から出た廊下の右側の壁に面した扉が姉貴の部屋だ。

「じゃ、 ちょっと失礼」

一応そんなことを言つと、 氷枕を持つたほつの手で扉を開けた。 すぐそこのベッドに氷枕を枕代わりにして姉貴を寝かせた。

「ごめんね、 ありがと」

姉貴は無理して笑顔を作つて礼を言つた。 何だか急に照れくさくなつてしまつた俺は、 半ば強引に姉貴の心配をしてみせた。

「お粥でも作るか？」

「ありがと、 けど食欲無いから」

「そうか。 じゃあもう寝とけ」

「あの、 一つお願い聞いて？」

何だか姉貴の表情がいつになく真剣になる。「何？」と俺は素つ気無く返した。

「一緒に……寝てくれない？」

「ふえ！？」

壁側に寄つてもう一人分のスペースを作る姉貴を見て、 思わず情けない声を出してしまつた。 こんな今までに無い。 どう対処すればいいか困つているうちに

「冗談だよ、 さ、 染つるといけないから戻りなさい」

笑顔。 しかし、 どこかに潜む寂しげな表情を俺は見逃さない。 そ

れに、ここで引くのも何とも姉不孝。俺は意を決した。

姉貴が作ったスペースに、黙つて身を縮めて入った。

「きょ、今日だけだからな！」

「あ、あ、ありがと」

ひどく慌てていた。俺も、姉貴も。

向かい合つてるので、荒くなっている姉貴の吐息が感じられた。

それでも理性で抑えた俺は偉いと自分でも思つ。

「あ、あのね」

また何か言いたいらしきが、もう俺は何を言われても動じない。

「大好きだよ」

そう言つて、姉貴はそつと自らの唇を俺のそれに重ね合わせた。何を言われても動じない、あれは『言われた』であつて、これは『された』だから動じてもセーフなはずだ。無理やり自分を納得させた後、姉貴の唇が離れるのを待つた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4677f/>

姉貴夢想

2010年10月28日08時32分発行